

# 信仰と希望と愛

第一コリント人への手紙 13:1-13

ホープ・チャペル所沢

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。  
その中で一番すぐれているのは愛です。」(第一コリント13:13)

## 序文

この20年にわたる私の人生で大きな影響を与えた作家の一人は、ゴードン・フィーという新約聖書の専門学者です。彼は一年のうちの半年間神学校で教え、残りの半年間を海外での弟子づくりと教会開拓に充てています。彼の教えと模範のどちらがより私に影響を与えたかを答えるのは難しいのですが、パウロがコリント人へ宛てたこの手紙の13章を今再び読むときに、「おそらくパウロの世界観は旧約聖書、救い主、そして聖霊様に基づいていたのではないか」ということを、私は以前フィーの助けによって理解することが出来たのだということが思い起こされます。結果、私は「今のとき」には信仰と希望と愛が大切であっても、「のちに来る時」にはただ愛だけが、今と同様に永遠に大切なものであり続ける唯一のものだと確信するに至りました。

### 1. 愛が無ければ？

(1-3節)

ア) 霊的な賜物を用いた働きは、愛が無くても出来る場合がありますが、愛が無ければそれらは無益です。

イ) どんな良い働きや犠牲であっても、愛から出たのでなければ益とはなりません。

### 2. 神様は愛であり、愛とは神様の生き方です。

(4-10節)

ア) パウロの言葉は、神様の本質と関係のあり方を説明しています。

イ) 霊的な賜物と知識は今だけのものですが、愛は今だけでなく永遠に至るまで存在します。

### 3. 成熟した人となるために、規則的で安定した成長を求めていきましょう。(11-13節)

ア) 未熟でいることにも時があり、成熟するにも時があります。

イ) いま私たちが知り得ている必要の中で、永遠に不可欠で価値のあるものは「愛」だけです。

## 結論

この命を終えたとき、私たちはもはや信仰も希望も必要ではなくなります。なぜなら神様の愛が、私たちが信じ、望んできた事がらを完成してくださるからです。

### 私たちの祈りと学び、話し合いと応用のために：

- 1) 愛が私たちの動機とやり方でなければ最善の努力も価値の無いものというのはどうしてですか。
- 2) 4-10節を読み、パウロの考える愛とあなたが考える愛がどのように違うのか、また何故違うのかを話し合ってください。
- 3) 11-13節を読みましょう。成熟と愛がクリスチャンにとって重要なのは何故ですか。

hetj083108